

# このまち、この人

次の「この人」を募集しています。自薦・他薦は問いません。でも他薦の場合は、本人のご承諾のあった上で推薦してくださいね。



「お盆に帰省した人たちに何も楽しみがないのは寂しいじゃないか」

## 夏まつり2008 2年目の熱い夏に向けて

夏祭り2008実行委員長  
前田孝一さんと静香さん  
(高郷)

「夏祭りをやろうと思ったそもそもの発端は、田野口の盆踊りなんですよ」  
——  
昨年の8月、前田孝一さんが発起人となって実行委員会を立ち上げ、地元有志による「高郷夏祭り」を実現させた。

来場者は約300人。大変なにぎわいぶりだった。あの日の興奮とにぎわいをもう一度見たいと、孝一さんはふたたび実行委員長として、2年目の「熱い夏」に向けて着々と計画を進めている。

「5年ほど前、田野口で生涯学習の一環で盆踊りを始めて、頼まれて太鼓を叩きに行ったんです。最初の頃は地元の人30人くらいで細々とやっていた。でも、一昨年、昨年と参加者が増えてきて、今は80人くらいでにぎやかなんです。それに影響されて」と、夏祭り開催に至ったきっかけを話してくれた。

「うちの地区では秋祭りをやるんですが、お盆の時期にはイベントがないんです。帰省した人が楽しむ場がないんです。寂しいから、それじゃあ、いっちょやってやるかって気になって。地区の人に声をかけたら、13人くらい「ええよ、やらざあ」って言ってきて、で、去年初めてやってみて、300人くらい来てくれました。バザーとか

も自分たちで用意して。楽しかったですよ。いつか地域に根づいた祭りにしたいなあ、そのとき思ったんです」。

今年もお盆を迎える時期となり、ポスターを各地に貼り出すなど、準備に余念がない。

「今年はスタッフも増えてきて、20人以上が参加してくれています。今年の目玉は何と言っても手筒花火。奥大井煙火保存会に頼んだら二つ返事で来てくれることになって。あの人たちも楽しくやってるんですよ。楽しくなければ続かないですよ、きっと。赤石太鼓とコラボレーションするって言うし、僕らも今から楽しみなんです」。

「帰省した人たちや地元の子どもの思い出になればいいなあと思っているんです。もしかしたら帰省するきっかけにもなるかもしれないし。高郷限定の祭りじゃないから、たくさんの人に遊びに来てほしい。8月13日夜の予定を開けておいてくれると嬉しいです」。

その傍らで静香さんが「地味に長く続けていければと思っています。だんだん周りの地区にも広がっていったら嬉しいですね」と孝一さんへのバックアップも万全だ。

2年目の熱い夏に向け、2人でうなずきあった。

## 2年目の熱い夏！第2回夏祭り2008

日時：8月13日(水)  
午後5時～9時まで

場所：高郷グラウンドゴルフ場  
今年の目玉は：

手筒花火と  
赤石太鼓のコラボレーション！

夏祭りオリジナル盆踊り、



おいしいものバザー、  
のこぎり演奏、  
世界の腕前ヨーヨー披露など、  
盛りだくさんの内容です。  
<http://www.loc2008.jp/kawane/>  
主催：夏祭り実行委員会  
(委員長：前田孝一)  
後援：高郷区、商工会高郷支部



小林 翔流くん

H19・7・6生 千頭

父：知宏・母：由美

あっという間に1歳だね。大好きなお兄ちゃんのをついて、ものすごくやんちゃ坊主になったね。これからも2人でいっぱい遊んで、笑って、大きくなってね。



後藤 その伽ちゃん

H19・7・26生 接唱

父：仁・母：理恵子

そんなちゃん、1歳の誕生日おめでとう！家族中でとても喜んでます。毎日家族みんなを癒してくれてありがとう！これからもよろしくね。

生まれてくれて  
ありがとう

1歳になったばかりの「お友だち」をご紹介します

### ～役場の窓辺に緑のカーテン～

温暖化防止活動の一環として、今年も役場の窓辺にアサガオのカーテンを設置しました。6月下旬、企画環境課職員の手で、ツルをはわせるためのネットが張られ、アサガオの種を植えたプランターが並べられました。

7月17日の時点でツルは50～60センチになり、今現在も空に向かってスクスクと伸びています。(設置箇所：本庁舎、総合支所、文化会館)



ネット張り作業→

川根本町  
ひとひら



北村 よつ葉ちゃん

H19・7・2生 徳山

父：英一・母：佳奈子

よつばちゃん、1歳おめでとう。あっちこち歩いて、忙しそうに遊んでいるね。これからも、すくすく大きくなってね。



山下 彦汰くん

H19・7・6生 高郷

父：直道・母：唯

あっという間に1年が過ぎたね。笑顔がかわいいいっくん。一緒にいると毎日がとっても楽しいよ！明るく元気で優しい子になってね！

### 編集後記

▼町の人口が減り続けています。合併時9377人だった人口は現在8936人に。400人以上も減ってしまいました。毎月広報紙を編集しているとよく分かりますが、「これは大変なことだ」と思ってみても、劇的な解決策が浮かぶはずもなく、このまま過疎が進んだらどうなるんだろう？と思うばかりでした。そんなとき、ある広報紙にこんな言葉を綴ったコラムがありました。

「何人減ったか増えたかで喜ぶ一憂するのではない。大切なのは、そこに住んでる人の内、その地域を愛して住んでる人が何人いるかってことなんだよ」……。

昨年、本町で開催した「全国まちづくりフォーラム」で、山梨県早川町の辻町長が話された言葉を思い出しました。「この町を愛して骨を埋めよう。みんなが誇りを持ってここで生きていこうと思えるんなら、たとえ人口1500人でも、それは良い町と言えるんじゃないか」……。

そういうことなんです。大切なのは「川根本町」を好きな人が何人いるかということ。ただ人口が減ってるから、「良くない町」というわけではないんですよ。

実は私は元からの川根本町人ではありません。幼い頃に愛知県から越してきました。もうだいぶ前のことで記憶も曖昧ですが、工業地帯の空気の汚れた街だったように思います。今ではこの町の環境が当たり前に思っていますが、実は、この空気の良さは、それ自身が他に誇れる価値です。おいしい水が常時水道から流れることも、空の青さも、近所づきあいの良さも、皆さんの笑顔も、多少の不便な面さえも、この町が持つ価値であり、「良さ」なんだと思います。

ナンバーワンより「オンリーワン」を目指せ。私の師匠である岩手県藤沢町の偉大な広報マン(正式な弟子入りはまだ認めてくれませんが)がモットーとする言葉です。

私もいつか、川根本町の良さを前面に出した、他の町にはないオンリーワンの「広報かわねほんちょう」をつくらねえと考えるながら、毎日過ごしています。小笠原聡

www.town.kawanehon.shizuoka.jp

つづきはwebで

このほかにも、いろいろと。

広報紙に載せきれない情報やお知らせ、地域の話話が満載の川根本町ホームページをご覧ください。

チラシ・カタログ・DM・自分史・カレンダー etc

松本印刷株式会社

島田営業所/島田市横井4丁目8番3号  
電話 0547-36-5015 FAX 37-1823